

再検証対象の公立・公的病院及び高度急性期・急性期機能を有する民間病院の具体的対応方針（その2）

青森県立中央病院 ※令和5年2月9日の地域医療構想調整会議において合意済

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

県内唯一の県立総合病院として、引き続き、県全域を対象とした高度・専門・政策医療を提供するとともに、地域の医療関係者等との連携・強化を図りながら、地域医療支援を充実していく。

【病床】

令和7年度時点の病床規模については現状維持する。

【病床規模の最適化に係る検証】

①病床利用率や医療需要（人口減少等）の観点から

県内唯一の県立総合病院として、求められる役割・医療機能を提供していく上で必要な病床を確保していく。

②その他（地域における特殊事情等）

県立中央病院と青森市民病院のあり方については、昨年2月に知事と青森市長が「青森県と青森市の共同経営による統合病院を新築整備する」との基本方針を発表し、昨年8月に新病院整備の方向性について「共同経営・統合新病院整備に係る基本的事項」をとりまとめ、令和5年度中を目途に新病院に係る基本構想・計画を策定することとしており、基本構想・計画の策定過程において、今後の病床規模についても検討を進めていく。

医療連携の考え方

【基本方針】

高度・専門・政策医療において、入院前から退院後の療養生活を見据えた切れ目のない支援を行うとともに、患者を受け入れる地域の医療機関や在宅医療・介護との連携・協力体制を強化する。

本県の地域医療・へき地医療を維持するため、県全域を対象とした医師等の派遣を強化するとともに、地域医療連携推進法人の設立も視野に、自治体病院等との連携強化に取り組む。

【具体的な医療連携について】

- ・がん領域については、県立中央病院において、高度専門医療を行った上、地域連携パスに参加する平内中央病院やあおもり協立病院等の回復期機能を有する病院への転院や診療所等のかかりつけ医へ送るなどの医療連携を引き続き行っていく。
- ・脳卒中については、県立中央病院において、高度専門医療を行った上、地域連携パスに参加する平内中央病院や公立野辺地病院、あおもり協立病院や青森慈恵会病院等の回復期機能を有

する病院への転院や診療所等のかかりつけ医へ送るなどの医療連携を引き続き行っていく。

- ・大腿骨頸部骨折については、県立中央病院において、高度専門医療を行った上、地域連携パスに参加するあおり協立病院や青森慈恵会病院、芙蓉会村上病院等の回復期機能を有する病院への転院や診療所等のかかりつけ医へ送るなどの医療連携を引き続き行っていく。

〈今後の取組〉

- ・婦人科腫瘍においては青森市民病院と連携し、悪性腫瘍を集約して専門的な医療を提供する。
- ・神経難病・認知症においては、医療連携に資する診療情報提供ツールの開発と運用体制の構築に取り組む。
- ・血液診療においては、専門施設（中央病院）と専門医がいない連携施設において、導入期・安定期・終末期とに分けた適切な医療連携体制を構築する。

《地域医療・へき地医療支援》

医師派遣については、県立中央病院から大間病院、外ヶ浜中央病院、小泊診療所、三戸中央病院、田子診療所、深浦診療所等の医療機関へ医師を常勤派遣しているとともに、つがる総合病院、むつ総合病院、鰺ヶ沢病院、十和田市立中央病院、平内中央病院、野辺地病院、七戸病院、三沢病院等の医療機関に対して、各領域において診療応援を行うなどの地域医療・へき地医療支援を行っており、引き続き地域医療・へき地医療を維持できるよう医師等の派遣の維持に努める。

【各圏域における主な医療連携先】

青森地域・・・青森市民病院、青森厚生病院、芙蓉会村上病院など

津軽地域・・・弘前大学医学部附属病院、弘前総合医療センター、黒石病院など

八戸地域・・・八戸市民病院、八戸赤十字病院、五戸総合病院など

西北五地域・・・つがる総合病院、かなぎ病院、鰺ヶ沢病院など

上十三地域・・・野辺地病院、十和田市立中央病院、三沢病院など

下北地域・・・むつ総合病院、大間病院など

青森市民病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

急性期医療を中心に、がん、脳卒中などの高度医療・専門医療等の提供を行う地域の基幹病院として、また、地域医療支援病院として、医療連携体制を支える等、これまでの役割・機能を引き続き担っていく。

【病床】

今後の患者動向等を踏まえ、病床規模の適正化を図る観点から許可病床を 459 床から 405 床へダウンサイジングする。

【病床規模の最適化に係る検証】

①病床利用率や医療需要（人口減少等）の観点から

〔病床数の変遷について〕

平成 30 年（2018 年）10 月、地域医療構想を踏まえ、適正規模の病床数とするため、許可病床を 538 床から 459 床にダウンサイジングした。また、令和 2 年（2020 年）3 月、一部の夜勤看護師へ集中していた夜勤業務の負担軽減のため、1 病棟を休棟し、稼働病床を 405 床とした。

その後、令和 2 年 9 月から新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応するため、1 病棟を感染症病棟に転用し、最終的に一般病床 352 床、感染症病床 14 床の計 366 床とした。

令和 5 年 5 月 8 日以降は、一般病床 352 床及び県から要請された新型コロナ即応病床を確保した上で運用している。

■病床数の変遷（参考）

（H30. 10 月～） 一般 538 床 → 459 床 ※許可病床の変更

（R2. 3 月～） 一般 405 床での運用

（R3. 3 月末時点） 一般 352 床、感染 12 床 計 364 床での運用

（R3. 11 月～） 一般 352 床、感染 14 床 計 366 床での運用

〔病床利用率の推移及び今後の医療需要について〕

病床利用率については、平成 29 年度から令和元年度までの 3 か年平均で 62.4%、令和 2 年度：56.7%、令和 3 年度：59.6%、令和 4 年度：51.8%といずれも 70%を下回っている状況にあるほか、令和 3 年度病床機能報告において新たに設けられた最大使用病床数は 393 床となっている。

また、入院患者数の推計では令和 7 年（2025 年）が 1 日当たり 310.4 人で、その後緩やかな減少が見込まれているものの、入院患者数に占める 65 歳以上の割合は平成 27 年（2015 年）の 60.9%に対し、令和 7 年は 68.7%と高齢患者の割合の増加が見込まれることなどから、当面は、現在と同程度の医療需要が想定されている。

これらのことを踏まえ、許可病床数を適切な規模に見直す必要があると考えている。

②その他（地域における特殊事情等）

県立中央病院と青森市民病院のあり方については、令和４年２月に決定した「青森県と青森市の共同経営による統合病院を新築整備する」との基本方針に基づき、県と市で新病院に係る基本構想・計画を策定することとしており、今後、基本構想・計画の策定過程において、統合後の病床規模についても検討を進めていく。

医療連携の考え方

【基本方針】

地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療提供、医療機器の共同利用、地域医療従事者に対する研修等の開催など、引き続き地域の医療機関等と連携しながら、地域医療の向上に取り組んでいく。

【具体的な医療連携】

・青森県立中央病院

県立の総合病院として、同じ青森地域に立地する病院であり、相互の紹介等を通じて患者の状態に応じた適切な医療サービスの提供に御協力いただいているほか、共に病院群輪番制病院として地域の夜間救急医療を担うなど、引き続き多くの場面で連携を深めていきたい。

・弘前大学医学部附属病院

相互の紹介等を通じて患者の状態に応じた適切な医療サービスの提供に御協力いただいております、引き続き連携を深めていきたい。また、医師については、弘前大学からの派遣が中心となっていることから、今後も御理解・御協力いただけるよう要望していく。

【その他】

・地域の医療機関（病院・クリニックなど）

令和５年４月１日現在、当院の医療機器共同利用制度に登録いただいている１３４の医療機関との連携をはじめ、紹介患者への医療提供や地域の医療従事者に対する研修等を実施している。

また、医療法人芙蓉会との連携協定に基づき、相互の患者紹介や認知症などの精神的なケアを必要とする入院患者に対する「精神的ケアサポートチーム」の派遣などを実施している。

このほか、地域のかかりつけ医機能を担う診療所等からの紹介患者の受入れや当院における治療を終えた患者の逆紹介などを実施しており、今後ともこれらの取組を継続・強化することにより、患者の状態に応じた適切な医療サービスの提供に連携しながら取り組んでいく。

青森市立浪岡病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

地域で発生する救急搬送患者を受け入れる「二次救急」、日常の療養生活を支援する「訪問診療・訪問看護」のほか、地域住民の健康管理、予防等を担う浪岡地区のかかりつけ医として、また、地域包括ケアシステムの中核としての役割等、これまでの役割・機能を引き続き担っていく。

【病床】

一般病床 35 床の規模を維持する。

【病床規模の最適化に係る検証】

① 病床利用率や医療需要（人口減少等）の観点から

〔病床数の変遷について〕

地域医療構想における近年の病床利用率と今後の医療需要を踏まえ、平成 30 年 10 月に、精神病床（107 床）を廃止し、平成 28 年度の病床使用状況を考慮して、一般病床を 92 床から 35 床に見直したうえで、病院の建替を行い、令和 3 年 5 月に開院したところ。

■ 病床数の変遷（参考）

（H30.10 月～）一般 92 床 → 35 床、精神 107 床 → 廃止

（R3.5 月～） 新浪岡病院開院（一般 35 床）

〔病床利用率の推移及び今後の医療需要について〕

病床利用率については、平成 29 年度から令和元年度までの 3 か年平均で 31.8%、令和 2 年度：38.3%、令和 3 年度：36.9%、令和 4 年度：37.5%となっているが、令和 4 年度に「青森市立浪岡病院利用促進委員会」を設置し、病院の利用促進対策の検討を行い、PR 活動などの利用促進対策を進めてきたことなどにより、令和 5 年度は 9 月末時点で 52.5%と前年度同月比 17.8 ポイントの増で、最大使用病床数は 25 床となっている。

また、入院患者数の推計では令和 7 年（2025 年）が 8,084 人、令和 12 年（2030 年）が 8,399 人で、その後緩やかに減少していくものの、入院患者数に占める 65 歳以上の割合は令和元年（2019 年）の 91.2%に対し、令和 12 年は 93.7%と高齢患者割合が増加することから、当面は、現在と同程度の医療需要を見込んでいる。

今後においても、「青森市立浪岡病院利用促進委員会」において病院の利用促進対策の検討を行い、利用促進対策を進めていくこととしており、さらに利用者が増加するものと考えている。

これらのことを踏まえ、現在の病床規模を維持する必要があると考えている。

② その他（地域における特殊事情等）

浪岡地区には、入院可能な国立病院機構青森病院があるものの、筋ジストロフィーや神経難病を中心とする神経筋疾患、重症心身障害、結核をはじめとする政策医療を担っており、救急告示

病院は当院のみであるため、救急への対応の点からも現在の規模等を維持する必要があると考えている。

医療連携の考え方

【基本方針】

在宅療養支援病院として、訪問診療・訪問看護や患家の求めに応じた看取りへの対応など、地域の医療機関及び介護・福祉施設とも連携しながら、引き続き、地域医療の充実に取り組んでいく。

【具体的な医療連携】

・弘前大学医学部附属病院

相互の紹介等を通じて患者の状態に応じた適切な医療サービスの提供に御協力いただき、引き続き連携を深めていきたい。また、医師については、弘前大学からの派遣が中心となっていることから、今後も御理解・御協力いただけるよう要望していく。

・黒石病院、弘前総合医療センター

相互の紹介等を通じて患者の状態に応じた適切な医療サービスの提供に御協力いただき、引き続き連携を深めていきたい。

平内中央病院 ※令和 5 年 2 月 9 日の地域医療構想調整会議において合意済

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

現在の役割及び医療機能を担う。(近隣に救急病院がないことから、救急についても維持)

【病床】

規模維持(転換)

【病床規模の最適化に係る検証】

①病床利用率や医療需要(人口減少等)の観点から

当院は、平成 25 年(2013 年)度後半から経営改善に取り組み、平成 26 年(2014 年)度以降、地域の実情や地域包括ケアシステムにおける当院の役割を踏まえた病床転換等を進めている。

■病床転換等実績(参考)

(H26.4 月)一般 64 床→36 床、療養 32 床→60 床

(H26.10 月)一般 36→20 床、地域包括ケア 0→16 床

(H28.1 月)一般 20 床→19 床、地域包括ケア 16 床→21 床、療養 60 床→56 床

(H29.2 月)一般 19 床→15 床、地域包括ケア 21 床→25 床

(H30.7 月)地域包括ケア 25 床→33 床、療養 56 床→48 床(R4.4.1 現在 一般 15 床、地域包括ケア 33 床、療養 48 床)

病床規模については、2045 年までの町の人口推計から、総人口が半減するものの、当院の主な利用者層(入院患者の平均年齢 80 歳超(R3 実績))となっている 75 歳以上の人口が極端に変化せず、令和 9 年(2027 年)度以降も 2,000 人程度で推移し、現在と同程度の医療需要が見込まれる。また、当院の病床利用率は、令和 3 年度(平均)で 74.6%、令和 4 年度病床機能報告(令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日)の最大使用病床数は一般 47 床、療養 47 床となっており、診療実績からも適当な病床規模と考えられるため、現在の 96 床を維持する。

②その他(地域における特殊事情等)

町内唯一の入院医療機関であることから病床規模を維持する。

医療連携の考え方

【基本方針】

現在、複数の科において他院からの診療応援を受けながら外来診療をしている。当院は在宅復帰に向けた医療の継続と看取りも含めた在宅医療の強化を図りながら、青森地域医療圏での後方支援病院として現有の病床数を維持し、地域連携クリニカルパスなどを積極的に運用するなどして、他院と連携していく。

【具体的な医療連携について】

・青森県立中央病院関係

現在、複数の診療科で診療応援をいただいております。移動手段の乏しい高齢者の多い当町では、出向かずとも受診できることから、安心・安全な地域医療体制を維持できる現状にあります。今後も青森県立中央病院からの診療応援をいただきながら、地域連携クリニカルパスなどを通しての互いの患者紹介、スタッフの人事交流や研修会の実施、感染対策上必要な助言・評価の実施やPHRの運用も含め、引き続き連携しながら質の高い地域医療の確保に努めたい。

・青森市民病院関係

現在、複数の診療科で診療応援をいただいております。移動手段の乏しい高齢者の多い当町では、出向かずとも受診できることから、安心・安全な地域医療体制を維持できる現状にあります。今後も青森市民病院からの診療応援をいただきながら、地域連携クリニカルパスなどを通しての互いの患者紹介、手術後の在宅復帰を見据えたリハビリ患者への相互関与、複雑な診療報酬改定などへも対応可能な他職種による人材育成など、引き続き連携しながら質の高い地域医療の確保に努めたい。

・その他（ひきち内科クリニック等民間クリニック）

当院はH27.12月から開放型病院となり、各民間クリニック等とも連携しながら、入院患者一人一人に寄り添いながら住み慣れた地域で医療提供ができるよう努めています。また、互いの患者紹介にとどまらず、直近では新型コロナワクチン接種などにおいても連携しながら地域医療・公衆衛生の確保に努めており、引き続き連携しながら質の高い地域医療の確保に努めたい。

青森慈恵会病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

ケアミックス病院として、ポストアキュートの患者受け入れと整形外科を中心とした地域の医療ニーズに対応すること。特に最近が高齢患者の増加に伴い、退院調整が難しい事例が増加していることから、退院支援部門と病・病連携、病院・在宅連携強化を図流とともに、患者、家族の自助意識の向上に努めていく。

【病床規模の最適化に係る検証】

一般病床と療養病床の内訳

- ・一般病床 154床：84床 DPC対象病棟（急性期一般入院料4 10対1）
22床 緩和ケア病棟（政策医療に係る病床転換）
48床 回復期リハ病棟（政策医療に係る病床転換）
- ・療養病床 96床：48床 回復期リハ病棟
48床 地域包括ケア病棟

一般病床の緩和ケア病棟（22床）、回復期リハ病棟（48床）においては、政策医療（コロナ即応病床）として運営しているが、政策医療終了後、本来の病床機能へ戻していく。

医療連携の考え方

【基本方針】

高度急性期病院からポストアキュートの患者を積極的に受け入れ、できるだけ元の生活に戻るよう転院初期から積極的な介入を行い、急性期治療のアウトカム向上に努める。

【具体的な医療連携】

高度急性期病院とのWEBカンファレンスを通じ、転院患者の情報交換を行うことで、なるべくシームレスな連携ができるようにする。また特殊な事例に関しては、転院前に患者を訪れ、転院後について面談するよう努める。

在宅への連携については、退院調整を包括的に行うセンターを立ち上げ、これまで以上に患者中心の連携強化に努めている。具体的には、病院専門職から直接ケアマネージャーや訪問リハ、訪問看護に入院中の目標管理などを直接伝えるようにし、ケアプラン作成を支援していく。

【その他】

超高齢化社会において、患者、家族の社会ニーズは多様となり、個別対応の必要性が高くなってきている。また高齢者については、入院を要するような急性期イベントは患者の要介護度を悪化させることが多いが、入院前と入院後では退院後の支援に関わるコーディネータが異なるなど、連携にも課題が多くある。今後は、こういった諸課題に入院時初期から積極的に関わることにより、患者、家族が安心して退院後の生活を送れるよう支援していきたい。

一般財団法人 双仁会 青森厚生病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

地域との交流も深め、地域にとっての病院づくりを目指していきたい。

在宅の機能を充実させるため、R5 年 5 月より、訪問リハビリの提供を実施している。

また当院では呼吸器内科医師専門医が 2 名在籍していることもあり呼吸器疾患への対応を継続して行っていく。

【病床規模の最適化に係る検証】

令和 5 年 3 月より、急性期病棟の病床数 111 床⇒86 床（25 床減）を削減した。また休止病棟の病床数 58 床も同時期に削減し、病床数全体を 199 床として運営していく。

【その他】

緩和ケア認定医が在籍しており、緩和ケア外来も開設し、今後地域にアピールをして運営していきたい。

医療連携の考え方

【基本方針】

急性期、回復期、慢性期、在宅と一貫した医療機能を担う。

【具体的な医療連携】

県立中央病院や市民病院とは、外科領域（胆、肝、脾）に関する手術対象者の連携や、当院で行える手術領域を引き続き継続して連携する。

新都市病院とも、引き続き療養が必要な患者を互いに引き続き連携しながら進めていきたい。

あおり協立病院や慈恵会病院などへ当院が有していない診療機能に対して、患者紹介等において引き続き病病連携を継続して行っていく。

【その他】

新たな取り組みとしては、緩和ケア認定医が在籍しており、緩和ケアや化学療法を有する病院機能として地域へのアピールをしていきたい。

医療法人雄心会 青森新都市病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

青森地域保健医療圏の西地区に位置する二次救急医療施設として、地域の医療ニーズを踏まえ、高齢化に伴い増加が見込まれる脳卒中、がん及び急性冠症候群などを中心に高度急性期を含めた急性期を中心とした医療の提供、救急医療の強化に努める。

また、急性期から回復期まで幅広く対応が可能であり、急性期を経過した患者に対する機能回復やADL向上を目的とした集中的リハビリテーションを提供する。

【病床規模の最適化に係る検証】

当院が担う病床規模、医療機能に変更の必要はないものと考えている。

地域医療構想の理念に基づき、地域に必要な医療提供体制を確保するため、医療ニーズを見極めた結果、平成 29 年 7 月に 1 病棟 45 床を急性期機能から回復期機能（回復期リハビリテーション病棟）へ病床の機能変更を前倒して実施している。

【その他】

災害医療体制の構築を目指す。

医療連携の考え方

【基本方針】

良質かつ適切な医療を効率的かつ継続的に提供するために、各医療機関の医療機能を踏まえた相互連携を図り、切れ目のない地域医療を提供する。

二次救急医療機関として、脳卒中を中心とした救急医療の提供、胃がん、大腸がん、乳がん等の悪性腫瘍をはじめ、当院が標榜する 17 診療科に係る疾患に対する精密検査、手術及び入院治療等を提供するため、地域の医療機関、在宅医療及び介護施設等との連携強化に努める。

【具体的な医療連携】

基本方針に基づき、以下の役割を担うため地域の医療機関及び関係機関等との医療連携の強化に努める。

- ・一次脳卒中センターとして、急性期脳梗塞に対する rt-PA 静注療法、機械的血栓回収療法の緊急手術の実施及びその他脳血管疾患等に対する緊急開頭手術に対応する。
- ・高齢者救急をはじめ、地域で発生する救急患者の初期診療と入院治療を担う地域の救急医療機関としてスムーズな患者の受入れ。
- ・当院で提供困難な高度・先進的な医療が必要な際は、青森県立中央病院、青森市民病院等へ紹介する。必要な医療が施された後に当院へ逆紹介により受入れることにより、高度医療機関との機能分化を図る。
- ・当院での治療を終えた患者のうち、なお慢性期や維持期の医療が必要となる際は、青森厚生病

院をはじめ、各機能に応じた医療機関等に紹介し治療を継続していく。

- 青森脳卒中地域連携パス、大腿骨頸部骨折地域連携パスに回復期機能として参加しており、青森県立中央病院、青森市民病院等の急性期病院からの円滑な流れにより、診療・リハビリテーションの強化、在宅等への復帰及び就労支援に取り組む。
- 当院が保有する高機能診断装置、その他検査医療機器等を地域の医療機関の先生方に有効に活用していただく。

村上新町病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

当院は、現在、急性期一般入院料 2（10 対 1）と療養病棟入院料 1（うち 16 床は地域包括ケア入院医療管理料 2）の届出を行っている。

また、救急告示病院として、年間 120 件程度の救急車の受入れのほか、救急車以外の夜間・休日の救急患者は年間 450 件程度受け入れしている。

手術については、血管外科手術が年間 100 件程度、整形外科手術が 20 件、その他ペースメーカーの移植・交換術等を行っている。

引き続き、現在の役割及び医療機能を担っていく。

【病床規模の最適化に係る検証】

病床利用率が一般病棟及び療養病棟とも 90%超であり、現在の病床数を確保する必要がある。

医療連携の考え方

【基本方針】

内科を中心に、高度急性期で治療を終えた患者さんの受入れや、診療所での治療が困難な患者さんの受入れを行っている。

【具体的な医療連携】

高度急性期の紹介元医療機関は青森県立中央病院、青森市民病院、弘前大学医学部附属病院等から、心疾患、脳卒中、腎臓病、骨折、がん等の患者さんを受入れしている。

また当院から高度急性期医療が必要な場合も、上記の医療機関へ紹介している。

成田祥耕クリニック、青森クリニック、南内科循環器科医院等の診療所からは、肺炎、心疾患、腎臓病等で入院加療が必要な患者さんを受入れしている。

医療法人同仁会 浪打病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

当院は、緩和ケアの患者様、ターミナルの高齢患者様等、慢性期の患者様、大腿骨パスや、リハビリ目的の患者様で構成されております。

【病床規模の最適化に係る検証】

今のところ、建て替えや施設への転換は考えておりません。

医療連携の考え方

【基本方針】

なるべく在宅への支援をするようにしております。

【具体的な医療連携】

訪問看護施設との在宅連携。

あおもり協立病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

当院は呼吸器疾患、脳血管疾患、消化器・循環器疾患等を主対象として、救急告示病院、2次輪番制担当病院としての役割を担うために全5病棟のうち3病棟を急性期病棟（急性期一般入院料4）、急性期治療後の脳血管疾患や大腿骨骨折等のリハビリを目的として2病棟を回復期リハビリテーション病棟（入院料1）とし、ケアミックス型病床として地域の医療要求に対応しています。心臓カテーテル検査や経皮的冠動脈形成術等の循環器領域件数は年間約250件、早期胃がん粘膜剥離術等の消化器領域件数は年間約460件、年間救急搬送件数は約1,000件となります。

【病床規模の最適化に係る検証】

現在病床稼働率は一般76.3%（重点医療機関としての即応病床・休止病床を確保した実績）、療養94.7%と高稼働を維持しております。また内科一般疾患への対応や救急医療等、当院が当圏域で果たしている役割の観点から現時点では病床機能や病床数の見直しについては念頭にありませんが、今後、地域の医療ニーズや当圏域での医療提供体制の変化に応じて検討していく必要があると考えます。

医療連携の考え方

【基本方針】

地域の医療機関と連携し、救急からリハビリ、在宅診療まで総合的な地域医療に取り組んでいます。

【具体的な医療連携】

青森県立中央病院、青森市民病院と回復期病院とで行われている脳卒中・大腿骨頸部骨折連携パスの回復期病院として積極的にその役割を担っております。

また、隣接するクリニックをはじめ、地域の医療機関、福祉施設の後方支援病院としての役割を担っており、退院支援看護師と専任の社会福祉士、介護支援専門員が、患者、家族の希望に沿った退院計画を立案し在宅復帰を支援しています。